

# 朝妻城跡

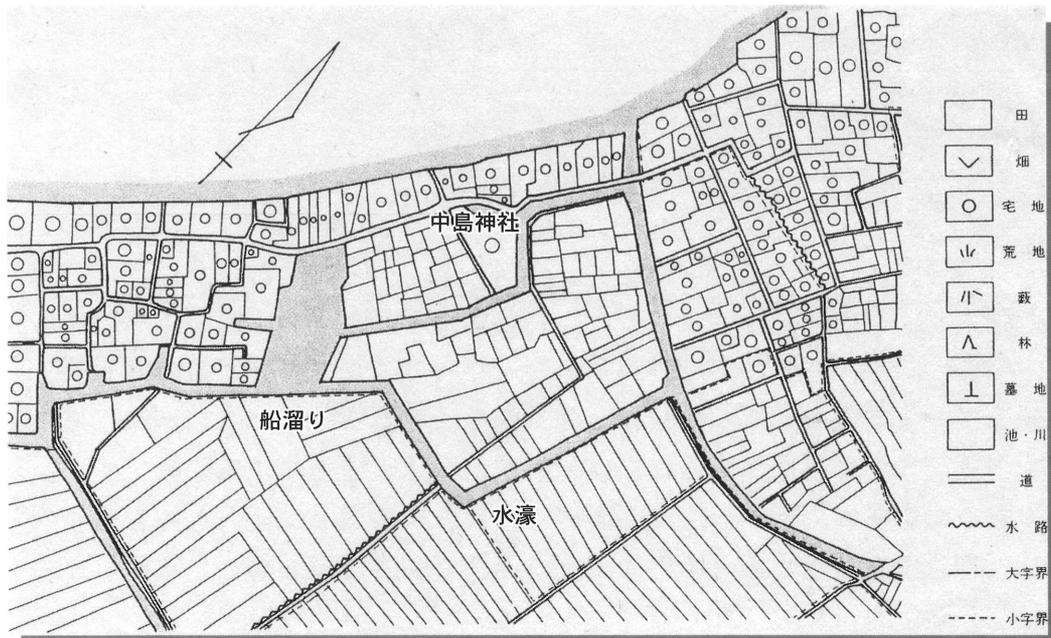
新庄氏は坂田郡新庄こくじんの国人で、新庄直昌なおまさが朝妻あさづまに城を築いたようです。その子直頼なおよりは浅井氏に属しましたが、後に織田信長に降り、秀吉の馬廻り(警護役)となって、その子孫は常陸麻生藩主ひたちあそう(茨城県行方市)として明治まで大名家として存続しました。新庄氏の墓所は総寧寺そうねいじ(寺倉)にあります。また、城跡に建つ中島神社の鳥居にかかる扁額へんがくは子爵新庄直陳の揮毫によるものです。

新庄氏歴代の居城は箕浦荘の新庄城ですが、ここ朝妻には古代以来の湖上交通の要港である朝妻湊があり、浅井氏がこの朝妻湊を支配するために新庄氏に命じて朝妻城を築かせ、守護のために新庄氏を入れたと考えられます。

朝妻城跡は中島神社を中心にした一画に築かれていたと考えられています。現在城跡の痕跡は認められませんが、中島神社のある場所は小字「向蔵」で地元では「殿屋敷とのやしき」とよばれており、近年まで南北200m、東西200mの水濠みずぼりが巡っていました。いまでも用水路として東と南面に残っています。明治前半(5～11年頃)の「朝妻筑摩村地券取調縮図」には、小字「向蔵」を水濠がめぐり、とくに南面には幅の広い水濠が描かれています。これは、城に付属する船溜りふなだまの痕跡ではないかと考えられています。



中島神社



「地券取縮絵図」には、城の北側に条里に沿わない蛇行する水田が隣接して描かれています。これは、天野川の旧流路とみられることから、朝妻城は、朝妻湊を押さえるだけでなく、天野川の河口も押さえることによって、東山道により運ばれる東国の物資を掌握することも重要な任務として築かれたと考えられます。

朝妻城跡推定図 (『地券取縮絵図』)



水濠跡 (奥の林が中島神社)



新庄氏墓地



朝妻湊跡



### 朝妻城跡

- 所在地 滋賀県米原市朝妻筑摩 (中島神社)
- アクセス JR東海道線米原駅下車。徒歩約45分。米原市役所米原庁舎にレンタサイクル有り。

### 米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106  
平成21年度 埋蔵文化財活用事業